被災地支援ボランティア活動報告

このたび、本会職員が東日本大震災の被災地である岩手県山田町に行ってまいりましたので、その活動を報告いたします。

昨年１２月２０日～２５日の６日間、所属する職能団体のボランティア派遣要請により、初めてボランティア休暇を取得し岩手県山田町に行って参りました。

活動内容は、町役場直営の地域包括支援センターの側面的支援ということで、町内に暮らす６５歳以上の方のお宅を１件１件巡回訪問し、安否や健康診断受診状況の確認、生活の困りごとなどの調査を行いました。

初日は夕方に現地入りしたため、あたりは真っ暗で周りに何があるのかわかりませんでした。しかし、活動開始日の朝、滞在先から役場へ向かおうとした矢先に私が目の当たりにしたのは、大量のがれきと津波が商店や住宅を襲ったあとに残ったコンクリートの土台であり、津波の爪跡のすさまじさを思い知らされました。

※ Mapion より転載・加筆

▲津波で防波堤は破壊され、建物が流され、残ったのはコンクリートの土台のみ。遠くに山積みとなったがれきが見える。

▲正面に見えるのは山田町役場。津波は１Ｆの駐車場まで押し寄せたが、庁舎は２Ｆから上にあったため奇跡的に被害を免れた。海から庁舎までは約４００メートル。

５日間の活動期間中、私が訪問しお会いした多くの方々は高台に居住しており、自宅の被災を免れました。しかし、震災当日はたまたま昼から帰宅したためご自身は無事であったものの、勤務先が海沿いにあったため上司や同僚全員を亡くしてまったことを時折声を詰まらせながら話される方、津波が押し寄せてきた時の人々の叫び声が耳に残っていて今でも不眠を訴える方もおり、震災がもたらした傷の深さを改めて感じさせられました。

そのような中でも、私どもボランティアに対しねぎらいの言葉をかけてくださる方、不在の方について情報提供してくださる方がおり、地域の方に助けていただきながら活動を行うことができました。

東日本大震災から１年を迎えました。

活動を経験し、今私たちに求められるのは、今も被災地で不便や苦しい思いをしながら生活していることを忘れずにいること、そして自分たちにできることをたえず考え、実行することではないかと思っています。（事務局次長　大井戸　麻衣）

厚別区共同募金委員会より　東日本大震災義援金へのご協力ありがとうございました

（平成 23 年 11 月～平成 24 年２月）

厚別区文化団体協議会 様 ・・・・・・・52,299円	高橋先生を囲むオカリナの会８ 様 ・・1,063円	伊藤　洋助 様 ・・・10,000円
SHINANO GARDEN 様（募金箱） ・・・・3,685円	おしゃべり畑 こだまの森 様（募金箱） ・18,012円	厚別区社協職員一同・20,000円
NPO法人オーク会 ぱんのひろば 様（募金箱） ・2,663円	Kitchen ぱる 様（募金箱） ・・・・・・・・824円	

当区共同募金委員会（厚別区社協内）は、９月３０日まで受け付け窓口となっています。
引き続きご協力をお願いいたします。